

支所だより

各総合支所管内での身近な出来事や話題などを毎月お知らせするコーナーです。

東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1 TEL0898-64-2700 FAX0898-65-4363

大きく育てカブトガニ

東予地域の海岸は、かつてたくさんのカブトガニがすんでおり、1949年には「カブトガニ繁殖地」として県の天然記念物の指定を受けました。しかし、高度経済成長期の海岸の埋め立てや、海水の汚染などの影響によりその数も急減し、今では絶滅の危機に瀕しています。

カブトガニと自然環境を守るために行われている保護活動の一つに、幼生飼育ボランティアがあります。このボランティア活動は、河原津海岸で毎年行っている幼生放流の効果を高め（大きく育てて放流した方が生存率が上がる）、カブトガニと自然環境の保護意識の高揚を図るため1999年に始めたものです。昨年は、個人、学校、企業から84名の応募があり、これまでの8年間で述べ490名の方がボランティアにご参加いただきました。

2005年からボランティアとなり、5齢幼生4匹を含め13匹を世話している高橋ちとせさんは、「毎日手間をかけて育てた幼生を放流することは心配ですが、無事に大きく育ててほしい」と話していました。自然環境の保全を願う多くの方の努力の結果、近年では5～9齢の幼生が発見されるようになりました。今後も保護活動を推進するとともに汚水処理施設の整備をし「カブトガニ天国」の再生をめざしていきます。今年の秋にも幼生飼育ボランティアを募集する予定です。広報紙等でお知らせしますので、皆様のご協力をお願いします。



高橋ちとせさん



幼生を放流

丹原総合支所

〒791-0592 丹原町池田1733番地1 TEL0898-68-7300 FAX0898-68-4769

「夢のある農業をめざして」

《丹原もぎたて倶楽部》

丹原もぎたて倶楽部は、消費者が完熟の美味しい農産物を自分で収穫する農業体験学習の場を提供することにより、農業や自然に対する理解を深めてもらい、都市と農村の交流から夢のある農業と地域を育てることを目的に平成9年に結成されました。倶楽部では、農家の経営の多角化・安定化、さらには顔の見える消費者との触れ合いが、農家にとっての働きがいや責任の重さに対する充実感につながることから、現在9戸の農家が5.8haの観光農園で活動しています。

年間楽しめる観光農園をめざして、1月～5月のイチゴ狩り、5月のサクランボ狩り、6・7月のスモモ狩り、7月のモモ狩り、8月のブルーベリー狩り、8・9月のぶど

う狩り、9・10月のイチジク・栗狩り、10・11月のカキ・ミカン狩りと多彩な種類の旬の作物を提供し、消費者の皆さんから喜ばれ、少しずつリピーターの方も増えています。

これからは、品目と参加農家の拡大、加工品の研究、後継者の育成を図り、地域と連携して様々な形で交流を進めていく計画です。皆さんもぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



楽しそうなスモモ狩りの様子

小松総合支所

〒799-1198 小松町新屋敷甲496番地 TEL0898-72-2111 FAX0898-72-4048

椿が育てる小松の伝統

小松町では、藩政時代から椿の愛好者が多く、寺院や旧家の庭に古木が多く残っており、合併前は椿を「町花」と定めていました。町内にある温泉施設・椿交流館には、小松や愛媛県産の銘椿を展示した椿ハウスもあり、現在でも子どもからお年寄りまで、椿の栽培に取り組み、先人の想いを受け継いでいます。また、毎年7月には、小松地区老人クラブ連合会と愛媛小松つばき会、石根小学校児童と一緒に椿の挿し木を行っています。子どもたちに鉢へ挿し木する方法を教え、椿の枝を挿していきます。挿し木した椿は大きくなると、小松中央公園の椿園などに植え替えられます。

老人クラブでは毎年3月に椿一輪展を開催し、椿餅による接待や苗木販売なども行っており、育て方がわからない

という方には、愛媛小松つばき会の方が接ぎ木の方法や育て方を教えています。

また、石根小学校でも地元の椿栽培に詳しい方を講師に招き、小松の銘椿である篤山椿の挿し木を行っています。子どもたちが育てた椿の苗木は、毎年6月中旬に行われる交通安全キャンペーンで、全校生徒が書いた交通安全標語のしおりを添えて、ドライバーに手渡されています。キャンペーンは昭和58年から同校で行われており、椿を育てた想いを乗せてドライバーに安全運転を呼びかけています。

このように大人から子どもへと椿を愛する心を受け継ぎ、いつまでも椿の花が咲き誇るまちづくりを行っています。



挿し木



交通安全キャンペーンの様子